

安永武人先生御経歴

- 一九一九年二月二六日 佐賀県東松浦郡厳木村に生れる
- 一九三一年四月 佐賀県立唐津中学校入学
- 一九三一年九月 福岡県立鞍手中学校へ転校
- 一九三七年四月 佐賀高等学校文科乙類入学
- 一九四〇年四月 京都帝国大学文学部文学科入学
- 一九四二年九月 学士試験合格
- 一九四二年一〇月 京都帝国大学大学院入学
- 一九四六年一月 同志社経済専門学校講師
- 一九四六年四月 同志社経済専門学校教授
- 一九四九年四月 同志社大学教養学部助教
- 一九五一年三月 京都帝国大学大学院退学
- 一九五一年四月 同志社大学商学部助教
- 一九五三年四月 京都人文学園夜間部に出講
- 一九五四年四月 同志社大学文学部助教
- 一九五四年四月 同志社大学文学部学生主任
- 一九五五年四月 同志社大学文学部教授
- 一九五六年四月 同志社大学文学部教務主任
- 一九五七年三月 同志社大学文学部学生主任
- 一九五七年四月 同志社大学文学部学生主任
- 一九五八年五月 同志社大学文学部研究室主任
- 一九六〇年四月 同志社大学文学部学生主任
- 一九六〇年九月 同志社大学文学部学生主任
- 一九六一年三月 同志社大学文学部学生主任
- 一九六二年四月 同志社大学文学部学生主任
- 一九六三年七月 同志社大学文学部学生主任
- 一九六四年六月 同志社大学文学部学生主任
- 一九六六年四月 同志社大学文学部学生主任
- 一九六七年三月 同志社大学文学部学生主任
- 一九八一年四月 同志社大学大学院委員
- 一九八二年三月 同志社大学を退職
- 一九八四年四月 同志社大学名誉教授
- 一九八九年九月七日 御逝去

安永武人先生著作目録

この目録では、先生のご著作を「研究」「批評・提言・随想」「講演・座談会・その他」に分けたが、これらの分類は仮のものに過ぎぬことをおことわり申し上げる。

刊行年は西暦に統一し、「一九四三年」を「43年」のように略記した。また、原本に刊行の日付を記載されていぬものは、「60年11月―」のように記した。

研究

高市黒人私見

43年4月1日 京都大学国文学会「国語国文」第13巻第4号

歌の伝承(一)

48年2月1日 同志社経済専門学校「経専論叢」第18巻第1号

歌の伝承(二)——萬葉集卷十一・十二の異伝歌について

49年1月30日 同志社経済専門学校「経専論叢」第18巻第2号

大衆と文学——実態調査からの問題

53年5月1日 「日本文学」第2巻第3号

研究書目解題〔日本文学〕

53年9月10日 高木市之助編「日本文学研究入門」ミネルバ書

房

作品と読者——田宮文学についての一実験

53年11月10日 「文学」第21巻第11号

読者の問題——「蟹工船」「党生活者」はどう読まれているか

54年2月1日 「日本文学」第3巻第1号

西尾実・久松潜一編「日本文学辞典」〔書評〕

54年6月10日 「文学」第22巻第6号

「生活の探求」 島木健作

55年5月20日 永積安明・猪野謙一編『国民の文学 近代編』

御茶の水書房

「暗夜行路」と「或る女」

57年5月5日 日本文学講座第5巻「日本の小説」東京大学出

版部

野上弥生子「大石良雄」／森鷗外「奥津弥五右衛門の遺書」

58年12月1日 N H K 京都放送局編「文学への招待」創元社

〈文学の窓〉教育課程の改訂と文学教育

60年9月10日「文学」第28巻第9号

大宰 治／他4項目（「大宰治」「岡本かの子」以外の項目は未確認）

60年10月25日『日本歴史大辞典』第12巻（第四刷）河出書房

文学教育

61年9月1日 教育センター・シリーズ2『国語科教育の本質

と役割』

文学の本質と文学教育の役割

62年8月15日 日本文学教育連盟編『戦後文学教育研究史』上

巻 未来社

田山花袋の「一兵卒」——日露戦争と庶民

64年4月1日 憲法研究所編『憲法研究所特集・2 平和思想

史』法律文化社

戦時下の文学〈その一〉はしがき／一 いわゆる「戦争文学」につ

いて

66年3月15日「同志社国文学」創刊号

戦時下の文学〈その二〉二 従軍作家の作品

67年3月5日「同志社国文学」第2号

戦時下の文学〈その三〉三「皇民化」に抗して——朝鮮の作家たち

68年3月5日「同志社国文学」第3号

戦時下の文学〈その四〉四 文学の転向 I 林房雄のばあい

69年3月5日「同志社国文学」第4号

戦時下の文学〈その五〉四 文学の転向つづき II 横光利一のばあ

い

71年3月5日「同志社国文学」第5・6合併号

戦時下の文学〈その六〉四 文学の転向つづき III 島木健作のばあ

い

73年2月5日「同志社国文学」第8号

「学力テスト反対・高校全入運動と国民教育運動」

74年6月20日『民主教育——戦後京都の教育運動史』民衆社

三分野説総論

76年1月23日『京都の国語教育』第5集 京都国語サークル連

絡協議会

〈石川達三〈出自・背景・文学〉〉石川達三の戦争体験

76年8月1日「解釈と鑑賞」第41巻第10号

戦時下の文学〈その七〉四 文学の転向つづき IV 和田伝のばあい

77年3月5日「同志社国文学」第12号

文学教育の諸問題

79年1月20日「京都の国語教育」第8集 京都国語サークル連絡協議会

戦時下の文学〈その八〉Ⅳ 文学の転向つづき V 伊東静雄のばあい

79年3月5日「同志社国文学」第14号

京都・国語教育研究運動の歩み／他

82年6月25日『国語教育——三分野説・その理論と実践』法律文化社

『戦時下の作家と作品』83年12月23日 未来社

*戦時下の文学〈その一〉〜〈その八〉を改稿して収録。

Ⅰ 戦場の記録と文学 火野葦平『麦と兵隊』／石川達三『生きてゐる兵隊』

Ⅱ 文学の転向 はじめに／林房雄『青年』／和田伝『大日向村』／横光利一『旅愁』／伊東静雄『春のいそぎ』

Ⅲ 植民地の文学——『皇民化』とたたかう朝鮮の作家たち

天皇・戦争・国民——戦時下・短歌にみる十五年戦争の位相

91年3月20日「同志社国文学」 本号

批評・提言・随想

宮本百合子の死——新しい人間像

安永武人先生著作目録

51年2月11日「同志社学生新聞」

新しい人間像〔宮本百合子とその文学〕

51年3月15日「京津時報」第3号

〔二枚論評〕 NHK版たんこうぶし

51年6月1日「同志社学生新聞」

一つの願い 奴隷的沈黙への訣別

51年10月15日「同志社学生新聞」

〔日曜随想〕 試験地獄と誰がいう

52年1月28日「夕刊京都」

民族的危機の認識こそ必要——反戦文学の二つの系譜

52年5月15日「同志社学生新聞」

人間としての悲劇〔ニュース映画批判〕

53年2月1日「同志社学生新聞」

大衆は何を読んでいるか——文学享受の実態調査から

53年3月20日「読売新聞」

〔日曜随想〕 啄木の苦悩

53年4月13日「夕刊京都」

全日本人が支援を〔内灘闘争支援〕

53年6月29日「同志社学生新聞」

指導者意識の過剰 執筆者の幅を広く〔同紙への期待〕

53年10月1日「同志社学生新聞」

〈私は市長選挙にかくのぞむ〉 求められる政治的節操

54年2月1日「同志社学生新聞」

〈中国映画「鋼鉄の戦士」を観て〉 モラルの確立

54年5月21日「国際新聞」

〈一九五五年に期待するもの〉——日本文学

55年1月8日「読売新聞」

女の出発——高峰秀子の言葉に寄せて

55年2月10日「同志社女子大学学生新聞」

〈都論壇〉 生活を書く運動

55年8月9日「都新聞」

女性の教養

55年9月24日「京都新聞」

生活記録の流行

55年12月30日「朝日新聞」

京都文学教室だより

56年1月1日「日本文学」第5巻第1号

映画のなかの短歌

56年2月16日「朝日新聞」

〈学窓を巣立つ若い人たちへ〉……心から話合える友を

56年2月19日「京都新聞」夕刊

漱石の人氣

56年7月23日「朝日新聞」

〈いけばな〉の幻想——K君の疑問にこたえて

56年8月1日「いけばな」Vol.1・No.4

農村の文化活動——青年間にさかんな熱意

56年11月2日「夕刊読売新聞」

〈新書・文庫本の功罪〉 週刊誌族的な危険性

57年6月3日「京都新聞」

連合のなやみ——「有志一同」の非難に答える

57年6月23日「同志社教職組連合ニュース」No.4

〈恋人のほしい人たちへの提言〉 恋愛も人生コースのうち・他

57年7月1日「友愛」第114号

ほんものの教師——東井義雄氏の教育活動について

57年8月29日「夕刊読売新聞」

〈忘れえぬ書物〉「初恋」のところに 藤村の「若菜集」が転機

57年10月25日「朝日新聞」夕刊

本をよむということ

57年11月1日「平安」第24巻第11号

〈師弟交歓〉3 うづく戦争の傷痕 黙過できぬ“人間失格”

58年1月13日「読売新聞」

〔問題点〕 お粗末な古典注釈書

58年1月26日「朝日新聞」

〔問題点〕 前進続ける国語サークル

58年3月2日「朝日新聞」

〔問題点〕 人生的渇きに応える：「人間記録」の感動の意味

58年4月6日「朝日新聞」

〔問題点〕 散文は日本の叙情と絶縁したか

58年5月11日「朝日新聞」

〔問題点〕 労組機関紙の盲点——現実的状况からの発想欠く

58年6月8日「朝日新聞」

〔書評〕 問題意識が牧歌的——武田泰淳の「森と湖のまつり」

58年7月21日「京都新聞」

労組文芸への一提案——まだそのつよみが發揮されていない

58年8月14日「朝日新聞」

〔随想〕 文学サークルのうち・そして

58年9月20日「朝日新聞」

〔問題点〕 ものの考え方の違い——「主婦」と「つづり方兄妹」

58年9月28日「朝日新聞」

〔問題点〕 多いマト外れの批判 「文学者の社会的発言」

安永武人先生著作目録

58年11月14日「朝日新聞」

和田洋一著「灰色のユーモア」〔書評〕

58年11月30日「朝日新聞」

納得できぬ十六円（皇太子夫妻の新築の家）

59年5月25日「京都府職新聞」 家庭版

〔読破〕 不能症

59年5月29日 同志社大学消費生協「東と西と」第3巻第3号

〔映画にみる夫婦像〕 「人間の壁」

59年10月21日「読売新聞」

〔映画にみる女性像〕 「人間の条件」

59年12月2日「読売新聞」

書くということ——生活記録の提唱として

60年3月1日「平安」第27巻第3号

忘れられた土地「日本残酷物語・第二部」

60年3月8日「京都新聞」

〔映画にみる女性像〕 「おとうと」

60年11月5日「読売新聞」

「話しあい」の墮落

60年11月——同志社大学消費生協「東と西」婦人版 No.3

〔映画にみる女性像〕 「地下鉄のザジ」

61年4月4日「読売新聞」

教育研究活動の推進にあたって

61年5月27日「同志社教職組連合ニュース」No 14

勤労者の文化活動——組合執行部の指導について

61年6月20日「京都勤労者学園」No 27

〈この一冊〉 島木健作「生活の探求」 暗い時代のよりどころ

61年10月2日「読売新聞」夕刊

〈文芸〉 事実と文学——土佐文雄「重い靴の音」をよんで

61年10月30日「京都教育」No 204

〈好日録〉 母親大会をささえた人たち

62年8月28日「夕刊京都」

「思想と方法」私見

62年10月15日「日本文学協会関西支部協議会ニュース」関西大

会準備号

岩波新書「日本の教育」をすすめる

62年11月15日 同志社大学二部文学部自治委員会「第二文学」

Vol 3・No 4

本をよむということ 学問・文学についてのきれぎれの感想

62年11月21日「同志社女子大学学生新聞」

〈時点〉 国民文化運動のなかの文学運動

63年12月1日「現実と文学」No 28

書評〈雑草のように強く〉——夜間中学生の記録

64年4月25日「季刊 教育運動」第2号

小学校「道徳の指導資料」批判

64年7月25日「季刊 教育運動」第3号

「愛と死をみつめて」の背景

64年10月17日「朝日新聞」

教育雑感

66年5月23日 京都洛北生協「洛北」第3巻第5号

苦闘する教師たち——教育統制のつよまるなかで

66年9月10日「京都労演」No 143

チョゴリの面影

67年4月10日「京都労演」No 117(マ)

〔教育への提言〕 苦労は誰のために——あたらしく教師になった人への手紙

への手紙

68年1月20日「季刊 教育運動」第11号

さばかれる文部省——家永教科書裁判におもう

68年11月 育友会だより「葵」No 46

子どもころのうた〔選・安永武人〕

68年12月1日「季刊 教育運動」第13号

京都府下・国語サークル合同教研の報告 提案1「三分野説」の根拠

68年12月1日「季刊 教育運動」第13号

「言語教育」試論

69年2月1日「季刊 教育運動」第14号

《改訂中学校指導要領・国語科編の問題点》言語技術主義批判

69年3月1日「教育科学 国語教育」No125

奔放自在な創造力を——創刊のことは

69年12月20日「京都文化運動」創刊号

初心にかえって〔育友会のあり方〕

71年3月——育友会だより「葵」No53

教育労働者と文化運動Ⅱ七〇年十一月・京都教研提案要旨

71年5月——「季刊 教育運動」第19号

京都の国語教育運動

71年11月1日「京都の国語教育」第2集

文連ゼミナールのまとめ——問題の所在と今後の課題

73年4月28日「京都文連」No20

危機感の欠落——創立十年目の自戒

73年11月20日「京都文化運動」第4号

「労映」「映サ」への名称変更をめぐる

74年10月20日「京都文連」No23

《随想》ことば

76年8月1日「文芸会館友の会ニュース」No5

ある戦中派の戦後

76年12月1日「教育通信 国語」No5 第一学習社

《随想》年賀状

77年2月1日「文芸会館友の会ニュース」No11

書評「思い出す人びと」

77年4月——「季刊 教育運動」第38号

〔教育への提言〕音読と暗誦のすすめ

78年1月——「季刊 教育運動」第41号

書評「旭丘に光あれ」

78年3月——「季刊 教育運動」第42号

教職志望のN君へ

79年3月15日「同志社大学国文学会会報」第13号

本号発行にあたっての自省と期待

80年3月——「季刊 教育運動」第50号

50号こえた「季刊・教育運動」

80年12月21日「京都新聞」

〔教育への提言〕子どもに創るよろこびを——マスコミ文化のなか

の教育

81年7月―「季刊 教育運動」第55号

〔教育への提言〕往復書簡 京教組・佐藤良輔委員長へのたより

83年5月―「季刊 教育運動」第62号

〔研究室から〕文章の戦後改稿

84年8月19日「赤旗」

〔随想〕わかれの記

85年8月―「季刊 教育運動」第71号

いのち

85年11月20日『子どもたちへ／戦火をこえて語りつぐ』

京都子どもを守る会33年のあゆみ

講演・座談会・その他

防衛隊設置は軍隊復活(の)第一歩

52年2月27日「日吉ヶ丘高校新聞」

共同斗争の成果から〈学生、教授座談会〔破防法粉砕闘争〕

52年6月15日「同志社学生新聞」

〔にじりえ〕その虚構と実存

53年11月19日「都新聞」

座談会「生きる」ためのもの――大成寮生自殺事件に学ぶ

54年5月1日「同志社学生新聞」

〈私は「二十四の瞳」をこう見た〉気になる過去への詠嘆〔談話〕

54年9月14日「都新聞」

〈ヘプバーンの魅力 映画「懐かしのサブリナ」をみて〉〔座談会〕

54年9月27日「読売新聞」

〈子どもを導く心がまえ〉子どもたちのために〔講演要旨〕

56年3月24日「むろまち」

最近の文学者の動向――その政治活動への現れ〔談話〕

56年5月8日「同志社学生新聞」

身にしみる核戦争の非情(映画)「世界大戦争」〔座談会〕

61年10月6日「京都新聞」

中学生に与える本 お母さんの読書指導〔談話〕

62年3月6日「読売新聞」

日本の教育・文化情勢と子どもの文化〔講演要旨〕

62年11月22日「京都子どもを守る会会報」文化会議特集号

キリスト教主義大学と女子教育〔座談会〕

63年4月1日「キリスト教学校教育」No.62 *9

座談会「軍国主義教育の復活」をどうとらえるか

64年1月15日「季刊 教育運動」第1号 *10

座談会 地域の教育運動

66年6月―「季刊 教育運動」第8号 * 11

文連活動強化のために―新しい芸術の創造 [提案要旨]

66年10月13日述 京都府勤労者文化団体連盟「活動者会議資料」

同志社教育はこれによいのか/他 [共同研究]

68年7月27日(同志社)教育懇談会記録 V * 12

特集・座談会 文化運動の展望

69年12月20日「京都文化運動」創刊号 * 13

開会あいさつ(京都の労働運動と文化運動) [講演記録]

72年(12月)「京都文連」No 15

座談会「文連十年のあゆみ」

73年11月20日「京都文化運動」第4号 * 14

座談会 教育センター13年をふりかえって

73年11月―「季刊 教育運動」第25号 * 15

インタビュー「世界文化」のころ―一九三〇年代・京都の反フ

ァッシュ運動(和田洋一氏に聞く) [聞き手]

74年11月10日「京都文化運動」第5号

新しい民主的文化運動を考える(文連ゼミナール・討論、他)

74年11月20日「京都文連」No 24

新しい民主的文化運動を考える(文連ゼミナール・つづき)

74年12月20日「京都文連」No 25

《京の文学風土記》横光利一「旅愁」―伝統美へのあこがれ

78年7月13日「朝日新聞」 * 16

文学の教育力とは―文学教育の諸問題 [講演記録]

78年11月―「季刊 文学教育」一九七八秋季号 鳩の森書房

文学教育の諸問題 [講演要旨]

79年1月20日「京都の国語教育」第8集

蜷川虎三さん―おおいに教育を語る [聞き手・細野武男氏と]

79年3月―「季刊 教育運動」第46号

メッセージ 文学は文学として

81年8月23―24日 京都はぐるま研究会夏季集会 資料

84年度文連総会記念講演 文連20年の歩みをふりかえって

85年6月9日「京都文連」第41号

座談会 京都文連創立20周年・特別企画 20年の歩みと展望 * 17

85年6月9日「京都文連」第41号

74年11月20日「京都文連」No 24

注

- * 1 山本正行氏と共同執筆。国民教育研究所・京都教育センター監修。
- * 2 往復書簡。沢瀉久孝氏の返信には、「こたわっては不幸／本当の文
学説明が努め」の見出しが付けられている。
- * 3 文末に、「教育センター会報」第16号（64年6月16日）より再掲、
と注記あり。
- * 4 出席者 和田洋一・前田一良・安永武人・杉江三郎・池本幸三
- * 5 出席者 今井 正・山村 聡・淡島千景・安永武人・奈良本辰也
- * 6 出席者 安永武人・学生4名／（司会）築田同紙編集長
- * 7 出席者 安永武人・谷口義子・堂本尚郎
- * 8 出席者 安永武人・宮本正太郎・松林宗恵・貞広太郎
- * 9 出席者 土居敏雄・仲原晶子・武田美代子・安永武人／（司会）笠
原芳光
- * 10 出席者 細野武男・安永武人・井ヶ田良治・太田正二・松本彦七・
藤原富造・森本泰央／（司会）奥田修一
- * 11 出席者 大橋タカ・奥田修三・落合英夫・葛西千恵子・関谷美奈
子・安永武人／（司会）藤原富造
- * 12 発題者 高橋哲郎・杉浦 祐・安永武人
- * 13 出席者 滝沢 一・谷ひろし・外山雄三・安永武人／（司会）柄戸
辰雄
- * 14 出席者 安永武人・堀 昭三・野田昌生・伊藤正昭・市田真一／
（司会）柄戸辰雄
- * 15 出席者 細野武男・安永武人・奥田修三・島 一郎・野中一也・山
本正行・上田義昭
- * 16 朝日アートセミナーの講義から。
- * 17 出席者 安永武人・藤沢 薫・北倉美智子・出井 稔・吉村克之／

（司会）加納たけし 「10月23日、30日の『京都市民報』に掲載された」
旨の注記あり。

この目録を編むに当たって、安永泉氏ご夫妻、堀部功夫氏、京都
教育センターのお力添えをいただいた。（内田 満編）